

ろくごうじんじゃ やぶさめ 六郷神社の流鎗馬

都指定文化財（無形民俗）

昭和38年（1963）3月19日指定

伝承地：六郷神社 東六郷3-10-18

交通アクセス：京浜急行本線ぞうしき雑色駅、六郷土手駅から徒歩10分

実施日：1月7日



(平成29年1月7日撮影)

六郷神社の流鎗馬は、一般的にイメージされる馬を駆けながら行うものではなく、^{まと}的の手前まで歩いてから弓を射る「歩射（^{ぶしや}転じて「オビシャ」とも）」と呼ばれる形式の正月行事です。6尺（約1.8メートル）四方の垂れ幕の中心に、内・上・外・下を見つめる4対の鬼の目玉「八方白眼」が貼られており、ここに矢を放つことで、その年の^{えほう}患方を^{ことほ}寿ぐとともに^{ついで}邪気退散の^{おに}願いを^{はっほうにらみ}込めます。かつては六郷の中でも限られた地区に住む、13歳以下の長男だけが^{しやしゆ}射手を務めましたが、現在では六郷全域から参加者を募り、健康・出世を願う行事として賑わっています。

当社の由緒は、社伝によれば^{てんぎ}天喜5年（1057）に源頼義・^{よりよし}義家親子が^{よしいえ}奥州征討（^{おうしゅうせいとう}いわゆる前九年の役）に向かう折、この地の老杉に源氏の旗印である白旗を懸けて石清水八幡宮（京都）に^{ぜんくねん}戦勝祈願したところ、目的が果たされたのでその^{ぶんれい}分霊を^{かんじょう}勧請したと伝わります。また、^{ぶんじ}文治5年（1189）には源頼朝も奥州藤原氏征討の際、先祖にあやかってこの地で旗上げを行い流鎗馬を奉納したことが、今日の歩射を「ヤブサメ」と呼ぶ^{ゆえん}所以であると言われます。^{てんしやう}天正19年（1591）に徳川家康によって^{しゆいんち}朱印地が寄進されたため、神社の紋として徳川家の^{あおい}葵紋が掲げられています。

平成10年（1998）からは、^{つるがおか}鶴岡八幡宮（鎌倉）で流鎗馬練習に用いられるものになって造られたというレール式の木馬も導入され、^{こうぎやう}興行性も向上しました。